

急性合併症	32
妊娠	8
足病変	16
感染症	61
慢性肝疾患	212
慢性腎不全	19
悪性腫瘍	106
虚血性心疾患	34
低血糖	16
脳血管障害	45
ネフローゼ	8
精神疾患	28
妊娠糖尿病	47
境界型糖尿病	1
甲状腺・副甲状腺疾患	
Basedow病	21
慢性甲状腺炎	1
亜急性甲状腺炎	1
甲状腺嚢胞内感染	1
副甲状腺機能低下症	1
副腎疾患	
副腎偶発腫（両側腫大含む）	17
Cushing症候群	4
Subclinical Cushing症候群	2
副腎皮質機能不全	2
原発性アルドステロン症	45
褐色細胞腫	5
視床下部下垂体疾患	
非機能性下垂体腫瘍	1
Empty Sella	1
下垂体茎腫大	1
汎下垂体機能低下症	3
先端巨大症	4
プラクチノーマ	1
尿崩症	1
汎下垂体前葉機能低下症	15
ACTH単独欠損症	2
続発性副腎皮質機能低下症	2
性腺機能低下症	1
電解質異常	
低ナトリウム血症	9
低カリウム血症	1
高血圧症	22
高度肥満症・肥満症	13
低血糖（疑い含む）	5
月経不順・無月経	1
多飲・多尿	1
低身長	4
体重減少	2
痛風	1

3) 手術症例病名別件数

(内分泌疾患の診断後に外科的治療を受けた症例に

ついて記す)

副腎疾患	
Cushing症候群	2
原発性アルドステロン症	7
褐色細胞腫	5
副腎偶発腫	1
視床下部下垂体疾患	
先端巨大症	1
非機能性下垂体腫瘍	1
ラトケ嚢胞	1
高度肥満	
袖状胃切除（胃縮小術）	4
計	22

4) 治療成績

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

死亡症例数	2
剖検数	0

7) 主な検査・処置・治療件数

糖代謝異常	
急性合併症（ケトアシドーシス、ケトーシス、高血	
糖高浸透圧症候群）に対する処置・治療	26
糖尿病性足病変に対する処置・治療	11
甲状腺・副甲状腺疾患	
Basedow病に対するアイソトープ治療	17
副腎疾患	
各種副腎疾患に対する内分泌学的検査	
副腎偶発腫	27
Cushing症候群	4
Subclinical Cushing症候群	2
原発性アルドステロン症	44
褐色細胞腫	5
副腎皮質機能不全	2
視床下部下垂体疾患	
各種視床下部下垂体疾患に対する内分泌学的検査	
Empty Sella	1
下垂体茎腫大	1
汎下垂体機能低下症	2
先端巨大症	4
プロラクチノーマ	1
尿崩症	1
成長ホルモン分泌不全症	1
汎下垂体前葉機能低下症	6
ACTH単独欠損症	2
続発性副腎皮質機能低下症	2
性腺機能低下症	1

8) カンファレンス症例

(1) 診療科内

- 1月29日 Ig G4関連漏下下垂体炎
- 2月5日 低血糖症
- 2月19日 褐色細胞腫
- 2月26日 SIADH
- 3月5日 ヒグアナイド薬
- 3月26日 劇症1型糖尿病
- 6月4日 GLP1受容体作動薬
- 6月11日 先端巨大症
- 7月2日 甲状腺クリーゼ
- 7月16日 低ナトリウム血症
- 9月3日 Kallmann症候群
- 9月3日 膵臓移植
- 9月24日 劇症1型糖尿病
- 10月29日 甲状腺中毒性周期性四肢麻痺
- 11月26日 妊娠糖尿病
- 12月3日 原発性アルドステロン症
- 12月10日 睡眠時無呼吸症候群

(2) 他科との合同

内科モーニングカンファランス・レジデントカンファランス

- 1月9日 満月様顔貌・浮腫
- 2月20日 意識障害
- 3月10日 二次性徴発現遅延精査
- 6月19日 下腿浮腫
- 7月17日 腹部膨満感
- 9月18日 高血圧
- 10月20日 高血圧
- 11月27日 嘔吐
- 12月18日 四肢筋力低下

糖尿病センター合同カンファランス

- 3月12日 日本人の体質に合った糖尿病食事療法
- 7月15日 I型糖尿病の診断と治療
- 10月22日 糖尿病腎症とチーム医療

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 内分泌代謝疾患の診療は多くの診療科の協力なしには推進し得ない。例えば糖尿病性網膜症は眼科、糖尿病性腎症は腎臓内科、虚血性心疾患は循環器内科、足壊疽は整形外科・皮膚科、甲状腺・副甲状腺疾患は内分泌外科、副腎疾患は消化器外科・泌尿器科、下垂体疾患は脳外科等である。引き続きこれら診療科との連絡を密にとってよりよい診療体制を築いていきたい。2009年度からは糖尿病センターが発足した。2013年度は合同カンファランスを計4回開催し、引き続き当該疾患へのチーム医療を充実させていきたい。

- 2) 診療面では、新たな薬物の登場等に伴う治療法の進歩はみられるが、疾患の治癒をもたらすような画期的な先進治療に乏しいのが当該領域における医療の現状であり、問題点でもある。移植医療、再生医療、遺伝子治療等の臨床応用の機が熟したならば、積極的に新規治療の開発と導入とに取り組んでいきたい。